

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	名古屋経済大学
設置者名	学校法人 市邨学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
経済学部	現代経済学科	夜・通信	18		38	56	13	
経営学部	経営学科	夜・通信			40	58	13	
法学部	ビジネス法学科	夜・通信			40	58	13	
人間生活科学部	教育保育学科	夜・通信			24	42	13	
	管理栄養学科	夜・通信			52	70	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

名古屋経済大学ホームページ http://www.nagoya-ku.ac.jp/info/announcement/021_pro/
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名：該当なし
(困難である理由) —

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	名古屋経済大学
設置者名	学校法人 市邨学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

法人ホームページ上で公表。（URL：<https://ichimura.ac.jp/chart/index.html>）

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	証券会社代表取締役社長	2018/5/31 ～ 2020/5/30	外部有識者としての知見を元にした意見具申（主に資産運用等）
非常勤	市議会議員	2019/4/1 ～ 2021/3/31	外部有識者としての知見を元にした意見具申（主に法人運営全般等）
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	名古屋経済大学
設置者名	学校法人 市邨学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>【経済学部・経営学部・法学部】 ディプロマポリシーに加え、全学推進教育センター及びカリキュラム検討委員会によって見直された編成方針に基づいて授業科目を編成している。その編成方針に基づいて編成された授業科目の授業計画は、以下の構成で作成している。 「授業の目標」では、学生の目線から見えるものを記載するとともに三つの領域である「知識・理解の領域」「技能の領域」「態度・志向性の領域」について原則として記載している。 「授業の概要」では、授業で講じる内容を、やや具体的に、ポイントを絞って示す。学生が授業をある程度イメージできるようにする。 「評価方法」では、どの評価ポイントを、どのような比重で評価するかを明瞭に示す。そのことによって、学生の授業への取り組みにメリハリが生まれると期待している。 「授業計画」では、第1回から第15回までそれぞれ記載するとともに準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間等を記載している。 テキスト、参考書についても具体的な記載をしている。 なお、シラバスは新年度開始時に学内・学外に向け公表しており常に確認できる状態になっている。</p> <p>【人間生活科学部教育保育学科】 授業科目については、授業の目標(到達目標)、授業の概要、成績評価の方法、15回の授業進行計画、教科書、参考図書および留意事項を、前年度中に作成し新年度より、学外サイトおよび学内サイト(キャンパススクウェア・メロス)において公表している。なお、質問への対応方法、準備学習(予習・復習等)の内容と必要な時間なども記載している。授業の方法(講義、演習等の別)については、「学生生活ハンドブック」の授業科目表に記載されている。</p> <p>【人間生活科学部管理栄養学科】 授業科目については、厚生労働省健康管理局が取りまとめている「管理栄養士国家試験出題基準」を踏まえ授業の目的、概要、成績評価の方法、15回の授業進行計画(シラバス)、教科書、参考図書および留意事項を、前年度中に作成し、学外サイトおよび学内サイト(キャンパススクウェア・メロス)において公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	名古屋経済大学ホームページ http://www.nagoya-ku.ac.jp/~syllabus/

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

評価方法は授業計画において以下のように記載している。

どの評価ポイントを、どのような比重で評価するかを明瞭に示している。そのことによって、学生の授業への取り組みにメリハリが生まれると期待している。ただし、授業に出席するのは当然であるため、出席による加点・減点は行わない。

例)

- ・参加姿勢 〇%
- ・レポート 〇%
- ・中間テスト 〇%
- ・期末テスト 〇%
- ・△△△ 〇%

上記より出された素点から60点以上の学習成果に対して単位が認定され、60～70点未満は「C」、70～80点未満は「B」、80～90点未満は「A」、90～100点は「AA」の成績評価がなされる。

また、成績発表後には不服申し立て期間が設けられており、不服のある学生は、教務窓口を通して申し出ることによって担当教員からの説明を受け、もしくは、正当な理由がある場合には成績評価の修正等の措置がとられる。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価の客観性と厳格性の確保および学生の履修意欲の向上を目的とし、GPA制度を導入している。GPA (Grade Point Average / 成績平均点) とは成績評価に対してそれぞれGP (Grade Point) を定め、1単位あたりの成績平均点を示したものである。GP (Grade Point) については評語と対応したやや大括りなものとし、評語については、AA, A, B, C およびNを合格とし、Dを不合格とする。合格した科目を再び履修することはできない。GPAは学業成績に記載されるとともに、一部選考資料としても利用される。

GPAの計算は次のとおりである。

$$GPA = \frac{4 \times AA \text{ 単位数} + 3 \times A \text{ 単位数} + 2 \times B \text{ 単位数} + 1 \times C \text{ 単位数}}{AA \cdot A \cdot B \cdot C \cdot D \cdot X \cdot Y \cdot Z \text{ の単位数合計}}$$

客観的な指標の
算出方法の公表方法

学生生活ハンドブック
名古屋経済大学ホームページ
<https://www.nagoya-ku.ac.jp/support/handbook/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

【経済学部・経営学部・法学部】

以下の方針を定めるとともにホームページにおいて公開している。

■学士の学位取得の要件

- ・学則及び履修規程(「授業科目の履修について」学生生活ハンドブック所収)に定める卒業に必要な単位を取得していることが学位取得の要件です。
- ・単位取得及び卒業の認定は各学部教授会が行います。
- ・4年間に履修する授業科目はいくつかの科目群に区分されており、区分ごとに卒業に必要な単位数が定められています。

■人材養成の目標

所定の授業科目の履修・単位取得ならびに課外に行う様々な活動を通して、本学の社会科学系3学部が目指すのは、以下のような能力を備え、アジアを中心にグローバルな舞台で活躍できる「たしかな社会人」の養成です。

- ・しっかりした職業観と健全な社会倫理を身につけ、仕事を通して社会に根を下ろし、社会に貢献する力。
- ・社会人に相応しい論理的思考力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力。
- ・所属する学部の専門領域の基本的・中核的知見と、隣接する領域の概括的な知見。
——法に関する知見を備えた経済学士・経営学士、経済・経営に関する概括的知見を備えた法学士であること。
- ・グローバルに活躍する気概と異文化理解・異文化交流の精神。

以上に加えて、以下のような資質の涵養が重要です。

社会にしっかりと向き合い、習得した社会科学の知見に基づいて社会のあり方に関心を持ち続ける力。それまでに出会ったことのない出来事に遭遇した時に、そこに存在する問題と解決の道筋を発見できる考える力。勇気と向上心と想像力を失わず、身につけた知見や実践的リテラシーを発揮し、自らが所属する社会の発展に貢献できる力。

【人間生活科学部教育保育学科】

保育者・小学校教諭養成課程であることから、卒業までに身に付ける力として、(1)子どもの育ちを支えるために自ら学び、自らを高める力、(2)子どもを取り巻く環境の課題と社会的な支援のあり方を探求する力、(3)子どもの発達を軸にして保育・教育を考える力、(4)エデュケアの考え方にに基づき保育・教育を実践する力、の4つの力を挙げている。また、これを踏まえ、卒業に必要な最低単位を科目区分ごとに設定している。これらは「学生生活ハンドブック」に記載し、入学後の学科オリエンテーションにおいて説明している。なお、卒業判定の手順については、学則に記載されており、「学生生活ハンドブック」に掲載している。

【人間生活科学部管理栄養学科】

卒業に必要な最低単位は、共通科目群では必修を含め16単位以上、必修である専門基礎科目8単位、同じく必修である基幹科目群38単位、同じく必修の展開科目群46単位、関連科目群では必修を含め6単位以上、必修である演習群10単位の計124単位以上となっている。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

名古屋経済大学ホームページ

https://www.nagoya-ku.ac.jp/info/announcement/02_policy/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	名古屋経済大学
設置者名	学校法人 市邨学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ウェブサイト(ホームページ) https://ichimura.ac.jp/about/H30kessan.pdf
収支計算書又は損益計算書	ウェブサイト(ホームページ) https://ichimura.ac.jp/about/H30kessan.pdf
財産目録	ウェブサイト(ホームページ) https://ichimura.ac.jp/about/H30kessan.pdf
事業報告書	ウェブサイト(ホームページ) https://ichimura.ac.jp/about/H30Jigyohoukoku.pdf
監事による監査報告(書)	ウェブサイト(ホームページ) https://ichimura.ac.jp/about/H30KanjiKanssa.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 本学ホームページにて公表 (<http://www.nagoya-ku.ac.jp/info/evaluation/>)

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 本学ホームページにて公表 (<http://www.nagoya-ku.ac.jp/info/evaluation/>)

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 経済学部現代経済学科
教育研究上の目的 (公表方法: 名古屋経済大学ホームページ https://www.nagoya-ku.ac.jp/info/announcement/01_purpose/)
(概要) 経済学部では、人間形成の基礎としての豊かな教養の涵養を目指している。それと併せて経済学の基本的理論に立脚し、そこから展開する諸科目を修得するとともに、消費者・生活者の視点から情報化・グローバル化を中心とした現代社会の動向がもたらす諸問題に深い洞察を持ち、実践的な問題解決能力を備えた人材を育てることを目的としている。すなわち、豊かな人間性を備えた上で、政策提言能力を持ち、経済学の素養と実務的な能力を活かして経済社会で活躍できる人材育成である。経済の構造・制度・政策をこの視角で学ぶことは、国民生活の発展向上に学問の立場から貢献するという経済学本来の目的にも適うものである。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: 名古屋経済大学ホームページ https://www.nagoya-ku.ac.jp/info/announcement/02_policy/)
(概要) 本学ではアジアを中心にグローバルな舞台で活躍できる「たしかな社会人」の養成を目標とし、以下のような能力を身につけた学生に学位を授与します。 ①しっかりした職業観と健全な社会倫理を身につけ、仕事を通して社会に根を下ろし、社会に貢献する力。 ②社会人に相応しい論理的思考力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力。 ③所属する学部の専門領域の基本的・中核的知見と、隣接する領域の概括的な知見。 ④グローバルに活躍する気概と異文化理解・異文化交流の精神。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 名古屋経済大学ホームページ https://www.nagoya-ku.ac.jp/info/announcement/02_policy/)
(概要) 「こうなりたい」という人物像・仕事につなぐため、本学では以下のような教育を実施します。 ①学生の多様化を見据え、1年生から4年生まで各学年の少人数ゼミをはじめ、一人ひとりの学生と向き合った教育を徹底する。 ②入学直後に、全学生を対象とする「基礎力テスト」を実施し、基礎科目を中心に必要な授業科目について、到達度別のクラス編成による授業を実施する。 ③入学後の早い時期に、社会人として不可欠な実践的技術の習得にチャレンジさせ、「達成感」と「自信」を体験させるとともに次の目標へ進む意欲を育てる。 ④専門領域の基礎をしっかり学びとるため必修科目については到達度が不十分な場合の再履修を含め徹底した学習サポートを行うと同時に、隣接する学部の専門領域の基本的知見を学び、社会を経済、経営、法の側面から多角的に理解する力を養う。 ⑤学びのきっかけ、学びの課題をつかみ、各専門領域の主体的な学びにつなげるため、キャンパスの内外、地域の自然、社会、産業、文化を学びの場あるいは対象とするフィールドワーク「体験型探究」を実施する。 ⑥インターンシップを含む系統的で充実したキャリア教育で、たしかな社会人を育てる。 ⑦基本的な技術や資格の取得の上に、さらに上級の資格・検定等を目指す自主的な学びや課外活動を支援する。 ⑧地域に根ざしつつ、地域を教育の場とし、地方自治体や商工団体等と連携して、多様で実践的な学びを進める。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：名古屋経済大学ホームページ
http://www.nagoya-ku.ac.jp/info/announcement/02_policy/）

（概要）

本学の目的は「たしかな社会人」の養成であり、入学に当たり求めるのは、「たしかな社会人」に育っていく資質であって、具体的には以下に示すような「夢、好奇心、やる気」です。

- ①自分の人生について「夢」を持つこと。はじめはぼんやりしていても、その輪郭を少しずつはっきりさせ、その夢を実現する道筋を見つけていくのが大学である。
- ②「これは何だろう？」、「これはどうして？」という好奇心。私たちを取り巻いている自然や社会に対する好奇心が大学における学びの出発点。
- ③学力を含めて人の様々な能力の発達のテンポやタイミングは、人それぞれに違うが、何かのきっかけが「やる気」を目覚めさせ、その時に「成長」が始まる。本学のカリキュラム・ポリシーが「成長」の導きとなり、「夢」につながるプロセスを作る。

<p>学部等名：経営学部経営学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： 学生生活ハンドブック 名古屋経済大学ホームページ https://www.nagoya-ku.ac.jp/info/announcement/01_purpose/)</p>
<p>（概要） 経営学部経営学科では、名古屋経済大学建学の精神「一に人物、二に伎倆」を尊び、人間形成の基礎としての豊かな教養の上に立って、経営学の基本を身につけ、今日のビジネス社会はもとより広く社会に貢献できる人材を育てることを教育目的としています。経営学部においては、国際化、情報化の著しい進展に対応して、経営学を中心に会計学、マーケティング、情報学などに関する専門的・総合的知識、技能を修得させることに努めます。その際、理論面と実務面を統一した経営関係諸学の専門教育が重要となりますが、特に学生の希望・関心に沿うとともに、ビジネス界の求めるところに配慮して、新時代の企業経営を担い着実にビジネス界での地位・キャリアを築くことのできる人材の養成をはかります。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： 名古屋経済大学ホームページ https://www.nagoya-ku.ac.jp/info/announcement/02_policy/)</p>
<p>（概要） 本学ではアジアを中心にグローバルな舞台で活躍できる「たしかな社会人」の養成を目標とし、以下のような能力を身につけた学生に学位を授与します。 ①しっかりした職業観と健全な社会倫理を身につけ、仕事を通して社会に根を下ろし、社会に貢献する力。 ②社会人に相応しい論理的思考力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力。 ③所属する学部の専門領域の基本的・中核的知見と、隣接する領域の概括的な知見。 ④グローバルに活躍する気概と異文化理解・異文化交流の精神。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： 名古屋経済大学ホームページ https://www.nagoya-ku.ac.jp/info/announcement/02_policy/)</p>
<p>（概要） 「こうなりたい」という人物像・仕事につなぐため、本学では以下のような教育を実施します。 ①学生の多様化を見据え、1年生から4年生まで各学年の少人数ゼミをはじめ、一人ひとりの学生と向き合った教育を徹底する。 ②入学直後に、全学生を対象とする「基礎力テスト」を実施し、基礎科目を中心に必要な授業科目について、到達度別のクラス編成による授業を実施する。 ③入学後の早い時期に、社会人として不可欠な実践的技術の習得にチャレンジさせ、「達成感」と「自信」を体験させるとともに次の目標へ進む意欲を育てる。 ④専門領域の基礎をしっかりと学びとるため必修科目については到達度が不十分な場合の再履修を含め徹底した学習サポートを行うと同時に、隣接する学部の専門領域の基本的知見を学び、社会を経済、経営、法の側面から多角的に理解する力を養う。 ⑤学びのきっかけ、学びの課題をつかみ、各専門領域の主体的な学びにつなげるため、キャンパスの内外、地域の自然、社会、産業、文化を学びの場あるいは対象とするフィールドワーク「体験型探究」を実施する。 ⑥インターンシップを含む系統的で充実したキャリア教育で、たしかな社会人を育てる。 ⑦基本的な技術や資格の取得の上に、さらに上級の資格・検定等を目指す自主的な学びや課外活動を支援する。 ⑧地域に根ざしつつ、地域を教育の場とし、地方自治体や商工団体等と連携して、多様で</p>

実践的な学びを進める。

入学者の受け入れに関する方針（公表方法：名古屋経済大学ホームページ

http://www.nagoya-ku.ac.jp/info/announcement/02_policy/）

（概要）

本学の目的は「たしかな社会人」の養成であり、入学に当たり求めるのは、「たしかな社会人」に育っていく資質であって、具体的には以下に示すような「夢、好奇心、やる気」です。

- ①自分の人生について「夢」を持つこと。はじめはぼんやりしていても、その輪郭を少しずつはっきりさせ、その夢を実現する道筋を見つけていくのが大学である。
- ②「これは何だろう？」、「これはどうして？」という好奇心。私たちを取り巻いている自然や社会に対する好奇心が大学における学びの出発点。
- ③学力を含めて人の様々な能力の発達のテンポやタイミングは、人それぞれに違うが、何かのきっかけが「やる気」を目覚めさせ、その時に「成長」が始まる。本学のカリキュラム・ポリシーが「成長」の導きとなり、「夢」につながるプロセスを作る。

<p>学部等名：法学部ビジネス法学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： 学生生活ハンドブック 名古屋経済大学ホームページ https://www.nagoya-ku.ac.jp/info/announcement/01_purpose/)</p>
<p>（概要） 現代社会を生き抜くためには、未経験の状況に遭遇した時に、そこに存在する「問題を発見」し、その「問題を解決するための適切な手段や方策を見つけ出す能力」が不可欠である。法学部では、法の学びを通じて、第一にこうした時代の要請に応え得る人材を養成すること、第二に「主体的に学ぶ力」や「生涯学び続ける力」等、個々人が生きていく力を自ら養うこと、を基本的な目標としている。 具体的には、社会生活に必要な人文・自然・社会科学の基礎学力のほか、法学のみならず経済学・経営学に関する骨格・基本を身につけ、自ら学び、問題を解決できる能力を備え、社会の変化に対応できる能力を備えた人材を育成する。 法学部の教育上の基本的な考え方は、個々人がもつ能力を最大限に開発できるように「少人数」教育を徹底して行うこと、同時に法学士として必要にして十分な基礎学力や法学的素養と能力と知識を提供し、習得させることである。そのために、教員は常に学生の勉学の到達点を知りながら指導する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：名古屋経済大学ホームページ https://www.nagoya-ku.ac.jp/info/announcement/02_policy/)</p>
<p>（概要） 本学ではアジアを中心にグローバルな舞台で活躍できる「たしかな社会人」の養成を目標とし、以下のような能力を身につけた学生に学位を授与します。 ①しっかりした職業観と健全な社会倫理を身につけ、仕事を通して社会に根を下ろし、社会に貢献する力。 ②社会人に相応しい論理的思考力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力。 ③所属する学部の専門領域の基本的・中核的知見と、隣接する領域の概括的な知見。 ④グローバルに活躍する気概と異文化理解・異文化交流の精神。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：名古屋経済大学ホームページ https://www.nagoya-ku.ac.jp/info/announcement/02_policy/)</p>
<p>（概要） 「こうなりたい」という人物像・仕事につなぐため、本学では以下のような教育を実施します。 ①学生の多様化を見据え、1年生から4年生まで各学年の少人数ゼミをはじめ、一人ひとりの学生と向き合った教育を徹底する。 ②入学直後に、全学生を対象とする「基礎力テスト」を実施し、基礎科目を中心に必要な授業科目について、到達度別のクラス編成による授業を実施する。 ③入学後の早い時期に、社会人として不可欠な実践的技術の習得にチャレンジさせ、「達成感」と「自信」を体験させるとともに次の目標へ進む意欲を育てる。 ④専門領域の基礎をしっかり学びとるため必修科目については到達度が不十分な場合の再履修を含め徹底した学習サポートを行うと同時に、隣接する学部の専門領域の基本的知見を学び、社会を経済、経営、法の側面から多角的に理解する力を養う。 ⑤学びのきっかけ、学びの課題をつかみ、各専門領域の主体的な学びにつなげるため、キャンパスの内外、地域の自然、社会、産業、文化を学びの場あるいは対象とするフィールドワーク「体験型探究」を実施する。 ⑥インターンシップを含む系統的で充実したキャリア教育で、たしかな社会人力をきたえる。 ⑦基本的な技術や資格の取得の上に、さらに上級の資格・検定等を目指す自主的な学びや課外活動を支援する。 ⑧地域に根ざしつつ、地域を教育の場とし、地方自治体や商工団体等と連携して、多様で実践的な学びを進める。</p>

入学者の受け入れに関する方針（公表方法：名古屋経済大学ホームページ

http://www.nagoya-ku.ac.jp/info/announcement/02_policy/)

（概要）

本学の目的は「たしかな社会人」の養成であり、入学に当たり求めるのは、「たしかな社会人」に育っていく資質であって、具体的には以下に示すような「夢、好奇心、やる気」です。

- ① 自分の人生について「夢」を持つこと。はじめはぼんやりしていても、その輪郭を少しずつはっきりさせ、その夢を実現する道筋を見つけていくのが大学である。
- ② 「これは何だろう?」、「これはどうして?」という好奇心。私たちを取り巻いている自然や社会に対する好奇心が大学における学びの出発点。
- ③ 学力を含めて人の様々な能力の発達テンポやタイミングは、人それぞれに違うが、何かのきっかけが「やる気」を目覚めさせ、その時に「成長」が始まる。本学のカリキュラム・ポリシーが「成長」の導きとなり、「夢」につながるプロセスを作る。

<p>学部等名：人間生活科学部教育保育学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：学生生活ハンドブック 名古屋経済大学ホームページ https://www.nagoya-ku.ac.jp/info/announcement/01_purpose/）</p>
<p>（概要）</p> <p>教育保育学科は、建学の精神に基づき、人物教育を重視するとともに、自ら学び、自らを高める力を育てます。専門的教育課程では、教育と養護を統一的にとらえるエデュケアの考え方を基盤にして、子どもの発達と子どもを取り巻く環境の課題と支援のあり方を深く学び、すべての子どもの育ちを第一に考えた保育や教育を展開できる力を育てます。</p> <p>教育保育学科の教育目標は、卒業までに以下の4つの力を身につけることであり、これら4つの力を持った保育者（幼稚園教諭、保育士）と小学校教諭を養成することです。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 子どもの育ちを支えるために自ら学び、自らを高める力 ② 子どもを取り巻く環境の課題と社会的な支援のあり方を探求する力 ③ 子どもの発達を軸にして保育・教育を考える力 ④ エデュケアの考え方にに基づき保育・教育を実践する力
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：名古屋経済大学ホームページ http://www.nagoya-ku.ac.jp/info/announcement/02_policy/）</p>
<p>（概要）</p> <p>教育保育学科の教育目標に掲げた4つの力を身につけることに加え、以下のような「たしかかな社会人」の資質・能力を身につけた学生に学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① しっかりした職業観と健全な社会倫理を身につけ、仕事を通して社会に根を下ろす力。 ② 社会人に相応しい論理的思考力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力。 ③ 社会にしっかり向き合い、習得した知見に基づいて人の成長と社会のあり方に関心を持ち続ける力。 ④ それまでに出会ったことのない出来事に遭遇したときに、適切な対応ができる「考える力」。 ⑤ 勇気と想像力と向上心を失わず、身につけた知見や実践的リテラシーを発揮し、自らが所属する社会の発展に貢献できる力。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：名古屋経済大学ホームページ http://www.nagoya-ku.ac.jp/info/announcement/02_policy/）</p>
<p>（概要）</p> <p>教育・保育の専門職につながるのが本学科のカリキュラムであり、保育士資格および幼稚園教諭免許状、もしくは小学校教諭免許状の取得を可能とするよう編成されています。</p> <p>教育学・保育学およびその隣接学問領域の科目を中心としながらも、それに加えて教育・保育の現場において生じる問題を解決する広い視野と能力を育てるために、子どもの発達や子育てにかかわる多面的な科目、社会のあり方を考える能力や豊かな人間性を磨く科目、国際化や情報化など社会の変化に適応する語学力、情報リテラシーなどの習得を目指す科目を学びます。</p> <p>学びのプロセスとしては、以下のような特徴があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学生の多様化を見据え、1年生から4年生まで各学年の少人数ゼミをはじめ、一人ひとりの学生と向き合った教育を徹底する。 ② 入学直後に、全学生を対象とする「基礎力テスト」を実施し、必要な授業科目について到達度別のクラス編成による授業を実施する。 ③ 教育学・保育学の基礎的知見を徹底して学びとることを目指す。 ④ 本学キャンパス内の「いちむら幼稚園」や近隣自治体(犬山市、小牧市)の保育園・認定こども園等における実習を豊富に取り入れる。 ⑤ 公立の保育園・幼稚園への就職を進めるために公務員試験への挑戦を奨励し、合格に必要な基礎学力の回復をはじめ試験対策を徹底してサポートする。 ⑥ 地域を教育の場とし、地方自治体と連携して多様で実践的な学びを進め、また多数の外国人留学生との日常的交流を通して、異文化間の理解とグローバル精神を養う。

入学者の受け入れに関する方針（公表方法：名古屋経済大学ホームページ

http://www.nagoya-ku.ac.jp/info/announcement/02_policy/)

（概要）

本学科は、教育者・保育者として社会に貢献する人材の養成を目的としています。したがって、子どもをはじめ人間に対する深い関心が、本学科の学生に求められる不可欠の資質です。具体的には、以下の3つを入学生の資質として重視します。

- ① 教育者・保育者として社会に貢献する意欲のある人
- ② 子どもをはじめ人間への深い関心を持つ人
- ③ 社会や家庭の変化、教育・保育現場の問題へ高い意識を持つ人

加えて、本学全体として重視している入学者の資質は、以下に示す「夢、好奇心、やる気」です。

- ① 自分の人生について「夢」を持つこと。
- ② 「これは何だろう?」、「これはどうして?」という「好奇心」を持つこと。特に、子どもや子どもの成長に対する好奇心が本学科の学生の不可欠な資質です。
- ③ 「好奇心」や「出会い」が「やる気」を目覚めさせ、その時に皆さん自身の新たな成長も始まります。

入学者受け入れに当たっては、以上の「夢、好奇心、やる気」を重視するとともに、子どもとその成長に関する強い関心、人間社会やその文化などに対する広い関心を、面接や小論文を通して確認します。

学部等名：人間生活科学部管理栄養学科
教育研究上の目的（公表方法：名古屋経済大学ホームページ https://www.nagoya-ku.ac.jp/info/announcement/01_purpose/ ）
（概要） 広く栄養学を学び、管理栄養士として社会に貢献する人材を養成すること。
卒業の認定に関する方針（公表方法：名古屋経済大学ホームページ https://www.nagoya-ku.ac.jp/info/announcement/02_policy/ ）
（概要） 広く栄養学を学び、管理栄養士として社会に貢献する人材の養成を目的とする本学科では、所定の単位取得とともに、以下のような資質が求められます。 ①社会人として豊かな人間性と社会性を身につけていること。 ②食と健康に関する基礎的・臨床的な知識と技術を習得しており、管理栄養士、栄養士として迅速に現場に対応できること。 ③食や健康問題の本質を見抜き、適切な問題解決に向けた行動を実践できること。 ④食や健康に関する専門的知識を継続して学習する態度を身につけていること。 ⑤管理栄養士国家試験に合格できる水準にあること。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：名古屋経済大学ホームページ https://www.nagoya-ku.ac.jp/info/announcement/02_policy/ ）
（概要） 本学科は、管理栄養士の養成を主たる目的として、管理栄養士資格取得を可能とするカリキュラム編成を基本にしています。 入学直後に、全学生を対象とする「基礎力テスト」を実施し、基礎科目を中心に必要な授業科目について、到達度別のクラス編成による授業を実施します。卒業までに履修するカリキュラムには、以下の科目群が体系的に配置されており、食と健康に関する専門的知見を順序良く段階的に習得することができます。 ①社会人としての教養と人間性を養うための「共通科目・教養科目」 ②栄養学の基礎的知識獲得のために置かれている生物学や化学など「専門基礎科目」 ③高度な知識や技能を習得するための「専門科目」 ④加えて、1年次から4年次まで少人数を単位とした「演習科目」が設けられ、教員と学生の密接な交流の中で、必修科目としての「卒業研究」を進めます。
入学者の受け入れに関する方針（公表方法：名古屋経済大学ホームページ https://www.nagoya-ku.ac.jp/info/announcement/02_policy/ ）
（概要） 本学科は、広く栄養学を学ぶことにより、管理栄養士を要請することを目的としています。したがって以下のような意欲、関心、資質を重視して入学生を選抜します。 ①食と健康への問題意識を高く持ち、問題解決への努力を惜しまない姿勢。 ②管理栄養士の職務をよく理解し、医療、福祉、教育、特定給食施設、行政等の場で、地域社会に貢献する意欲があること。 ③人との交流を大切にできる豊かな人間性を身につけていること。 ④栄養学の知識獲得のために必要な生物、化学を基礎とする学習に努力を惜しまない姿勢。 ○加えて本学科では以下に示す「夢、好奇心、やる気」を重視します。 ①自分の人生について「夢」を持つこと。はじめはぼんやりしていても、その輪郭を少しずつはっきりさせ、その夢を実現する道筋を見つけていくのが大学である。 ②「これは何だろう？」、「これはどうして？」という好奇心。私たちを取り巻いている自然や社会に対する好奇心が大学における学びのきっかけを作る。食と健康に関する好奇心が本学科の学生の不可欠な資質。 ③「好奇心」や「出会い」が「やる気」を目覚めさせ、その時に自身の新たな「成長」が始まる。本学のカリキュラム・ポリシーが「成長」の導きとなり、「夢」につながるプロセスを作る。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<http://www.nagoya-ku.ac.jp/info/announcement/>

③ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数(本務者)							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3 人	—					3 人
経済学部	—	9 人	9 人	1 人	0 人	0 人	19 人
経営学部	—	13 人	9 人	0 人	0 人	0 人	22 人
法学部	—	9 人	11 人	1 人	0 人	0 人	21 人
人間生活科学部	—	13 人	11 人	6 人	0 人	5 人	35 人
b. 教員数(兼務者)							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		83 人					83 人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： http://www.nagoya-ku.ac.jp/info/professor/					
c. FD (ファカルティ・ディベロップメント) の状況 (任意記載事項)							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
経済	150人	168人	112%	600人	568人	94%*		0人
経営	150人	169人	112%	600人	649人	108%*		0人
法	150人	171人	114%	600人	615人	102%*		0人
人間生活科	180人	113人	62%	720人	482人	66%*		2人
合計	630人	621人	98%	2520人	2314人	91%*		2人
<small>(備考) *編入学定員は設けておらず、「当該学科の定員に欠員がある場合には、その相当年次に、選考により、入学を許可することがある (名古屋経済大学学則第26条2項)」と定めている。 *編入学者数の内訳は「専門学校卒1名、短期大学卒1名」である </small>								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名				
	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含 む。)	その他
経済学部	95人 (100%)	0人 (0 %)	79人 (83 %)	16人 (17 %)
経営学部	126人 (100%)	2人 (2 %)	106人 (84 %)	18人 (14 %)
法学部	78人 (100%)	1人 (1 %)	72人 (92 %)	5人 (7 %)
人間生活科学部	119人 (100%)	2人 (2 %)	113人 (95 %)	4人 (3 %)
合計	418人 (100%)	5人 (1%)	370人 (89%)	43人 (10%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
経済	131人 (100%)	88人 (67.2%)	6人 (4.6%)	34人 (26.0%)	3人 (2.3%)
経営	155人 (100%)	112人 (72.3%)	11人 (7.1%)	29人 (18.7%)	3人 (1.9%)
法	86人 (100%)	74人 (86.0%)	1人 (1.2%)	8人 (9.3%)	3人 (3.5%)
人間生活科	141人 (100%)	114人 (80.9%)	7人 (5.0%)	19人 (13.5%)	1人 (0.7%)
合計	513人 (100%)	388人 (75.6%)	25人 (4.9%)	90人 (17.5%)	10人 (1.9%)

(備考)
 ・休学等が理由による留年者は少なく、学業不振による留年の学生が多い。
 ・中途退学者の退学事由の内、約22%が進路変更、約13%が就職、約11%が経済的事由による退学。
 ・中途退学者の内、約25%が除籍であり、その内の約55%が学費未納、約45%が成果の見込みがない事由による除籍。
 ・編入学、再入学した学生は除く。
 ・転学部した学生（人間生活科学部から経営学部1名、人間生活科学部から法学部1名）については、転学部元の学部において入学者数を減らして計上し、転学部先の学部において入学者数を増やして計上した。

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
 3学部共通または人間生活科学部それぞれのディプロマポリシーに加え、全学推進教育センター及びカリキュラム検討委員会によって見直された方針に基づいて授業科目を編成している。各授業においては、授業計画（シラバス）において授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法等を記載し、どの評価ポイントをどのような比重で評価するかを明瞭に示すことにより、学生の授業への取り組みにメリハリが生まれると期待している。「授業計画」では、第1回から第15回までそれぞれ記載するとともに準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間等を記載している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
成績評価の客観性と厳格性の確保および学生の履修意欲の向上を目的とし、GPA 制度を導入している。また、卒業は、以下の基準のもと各学部教授会が行う。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
経済学部	現代経済学科	130 単位	有・無	前期 24 単位
経営学部	経営学科	130 単位	有・無	前期 24 単位
法学部	ビジネス法学科	130 単位	有・無	前期 24 単位
人間生活科学部	教育保育学科	124 単位	有・無	半期 26 単位 年間 50 単位
	管理栄養学科	124 単位	有・無	半期 26 単位 年間 50 単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : <http://www.nagoya.ku.ac.jp/info/inuyama/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

(1) 一般生

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
経済学部 経営学部 法学部 人間生活科学部	現代経済学科 経営学科 ビジネス法学科 教育保育学科	600,000 円	200,000 円	400,000 円	その他の内訳 施設整備費 250,000円 維持費 110,000円 教育充実費 40,000円
人間生活科学部	管理栄養学科	640,000 円	200,000 円	440,000 円	その他の内訳 施設整備費 250,000円 維持費 110,000円 教育充実費 40,000円 実験実習費 40,000円

(2) 外国人留学生

1- 2019年度入学生学納金

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
経済学部 経営学部 法学部 人間生活科学部	現代経済学科 経営学科 ビジネス法学科 教育保育学科	540,000 円	100,000 円	360,000 円	その他の内訳 施設整備費 225,000円 維持費 99,000円 教育充実費 36,000円
人間生活科学部	管理栄養学科	576,000 円	100,000 円	400,000 円	その他の内訳 施設整備費 225,000円 維持費 99,000円 教育充実費 36,000円 実験実習費 40,000円

* 授業料は、初年度支払負担額の緩和措置を実施しており、実質的な支払額は、下記表(「表1」、「表2」)の記載金額

「表1」 (1年次学納金支払額)

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
経済学部 経営学部 法学部 人間生活科学部	現代経済学科 経営学科 ビジネス法学科 教育保育学科	420,000 円	100,000 円	360,000 円	その他の内訳 施設整備費 225,000円 維持費 99,000円 教育充実費 36,000円
人間生活科学部	管理栄養学科	462,000 円	100,000 円	400,000 円	その他の内訳 施設整備費 225,000円 維持費 99,000円 教育充実費 36,000円 実験実習費 40,000円

「表2」 (2年次以降学納金支払額)

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
経済学部 経営学部 法学部 人間生活科学部	現代経済学科 経営学科 ビジネス法学科 教育保育学科	580,000 円	- 円	360,000 円	その他の内訳 施設整備費 225,000円 維持費 99,000円 教育充実費 36,000円
人間生活科学部	管理栄養学科	614,000 円	- 円	400,000 円	その他の内訳 施設整備費 225,000円 維持費 99,000円 教育充実費 36,000円 実験実習費 40,000円

2- 2016～2018年度入学生学納金

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
経済学部 経営学部 法学部 人間生活科学部	現代経済学科 経営学科 ビジネス法学科 教育保育学科	480,000 円	100,000 円	320,000 円	その他の内訳 施設整備費 200,000円 維持費 88,000円 教育充実費 32,000円
人間生活科学部	管理栄養学科	512,000 円	100,000 円	360,000 円	その他の内訳 施設整備費 200,000円 維持費 88,000円 教育充実費 32,000円 実験実習費 40,000円

* 授業料は、初年度支払負担額の緩和措置を実施しており、実質的な支払額は、下記表(「表3」、「表4」)の記載金額

「表3」 (1年次学納金支払額)

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
経済学部 経営学部 法学部 人間生活科学部	現代経済学科 経営学科 ビジネス法学科 教育保育学科	360,000 円	100,000 円	320,000 円	その他の内訳 施設整備費 200,000円 維持費 88,000円 教育充実費 32,000円
人間生活科学部	管理栄養学科	398,000 円	100,000 円	360,000 円	その他の内訳 施設整備費 200,000円 維持費 88,000円 教育充実費 32,000円 実験実習費 40,000円

「表4」 (2年次以降学納金支払額)

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
経済学部 経営学部 法学部 人間生活科学部	現代経済学科 経営学科 ビジネス法学科 教育保育学科	520,000 円	- 円	320,000 円	その他の内訳 施設整備費 200,000円 維持費 88,000円 教育充実費 32,000円
人間生活科学部	管理栄養学科	550,000 円	- 円	360,000 円	その他の内訳 施設整備費 200,000円 維持費 88,000円 教育充実費 32,000円 実験実習費 40,000円

(3) 卒業要件 (4単位以下)

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
経済学部 経営学部 法学部 人間生活科学部	現代経済学科 経営学科 ビジネス法学科 教育保育学科	180,000 円	円	- 円	
人間生活科学部	管理栄養学科	192,000 円	円	- 円	

(4) 卒業要件 (5～10単位)

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
経済学部 経営学部 法学部 人間生活科学部	現代経済学科 経営学科 ビジネス法学科 教育保育学科	420,000 円	円	280,000 円	その他の内訳 施設整備費 175,000円 維持費 77,000円 教育充実費 28,000円
人間生活科学部	管理栄養学科	448,000 円	円	320,000 円	その他の内訳 施設整備費 175,000円 維持費 77,000円 教育充実費 28,000円 実験実習費 40,000円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

初年次より少人数のゼミ担当制を敷き、個々の学生の状態や課題に即したきめ細やかな修学支援を実施している。また、学部に学習支援室を設置し、学びの意欲の高い学生が相互に研鑽できる場と機会を提供している。経済面では、経済的困窮者に対する学費減免制度として本学独自の「未来支援基金」制度を設立し、本学入学後に経済的困窮に陥った学生に対しても大学が就学継続の道を開いている。また、授業等の修学において配慮が必要な学生に対しては、学生相談室がコーディネーターとなり、ゼミ担当教員、科目担当教員、学務部、医務室等、関係者と必要な情報を共有し、連携を取りながら支援を行っている。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

■インターンシップ

本学(経済・経営・法学部)では、インターンシップを卒業要件に含む授業科目として位置づけ、夏期休業等を利用して、2年生及び3年生を対象に休みを除く10日間または5日間を実習期間として、より将来の進路を明確にする取り組みとして設けています。また、授業科目とは別に2年及び3年の希望学生を対象に実習期間を問わず実施しています。インターンシップ受入先については、過去の受入実績のある企業・官公庁・非営利団体等で選択できることになっています。

■キャリア教育

名古屋経済大学(経済・経営・法学部)では、1年生から「市民生活とキャリア形成」「体験型プロジェクト」を開講し、健全な職業観を育成しています。2年生から3年生にかけ開講する「インターンシップⅠ・Ⅱ・Ⅲ」では、実際に企業研修をうけ、一足早く社会人経験を積むことができます。

また、各学部3年生前期に「キャリア支援講座Ⅰ」を開講し、業界研究や企業・職種について学び、自己の振り返りから自己PR作成、面接対策などの就職活動全般にかかわる内容の講義を実施しています。その主な内容としては、①就職活動の流れを知る②採用ページと求人情報の見方とポイント③どんな企業とどんな仕事があるのかを知る④社会人が働く理由を知り、自分が働く目的を考える⑤履歴書指導⑥グループディスカッション対策⑦面接対策などがあります。

さらに、3年生後期に「キャリア支援講座Ⅱ」を開講し、多くの企業の就職試験で取り入れているSPI3試験の特徴、出題形式を理解し、就職活動に勝ち抜く力を身に付ける講義をしています。

■資格取得

名古屋経済大学では、キャリアセンターを中心に、「PSES 公務員試験セミナー」、「新生活普及協会」、および「資格試験対策総合教育機関Vスクール」等との協働のもとで、学生

の資格取得・検定合格に向けた対策講座を実施しています。

講座の内容としては、公務員試験対策講座、保育士採用試験対策講座、教員採用試験対策講座、日商簿記検定（3級）講座、ファイナンシャル・プランナー（3級）講座、宅地建物取引士試験対策講座、行政書士試験対策講座、サプリメント管理士認定講座などがあり、学生の希望に合う多くの講座が開講されています。

名古屋経済大学では、経済学部、経営学部、法学部、人間生活科学部教育保育学科および人間生活科学部管理栄養学科のすべての学部学科において、必要とされる単位を取得した学生は、それぞれの学部学科に応じた教員免許状を取得することができます。

また、名古屋経済大学では、資格を取得した学生を奨励する「資格奨励賞」制度や一定の資格・検定を取得した学生に単位を認定する「単位修得認定」制度もあります。

■就職支援

名古屋経済大学では、初年次段階からきめ細かな指導とタイムリーな情報提供を行い、学生個々のキャリア形成・キャリアアップに向けたサポートを展開しています。

具体的には、入学時、進級時のオリエンテーションで就職に向けたキャリア形成支援、学内における個別企業説明会や合同企業説明会の実施、就職ガイダンスの実施、ゼミ別面談や求人情報の提供など就職活動全般に対する相談に応じ一人ひとりの学生に合わせた支援を行っています。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

医務室及び学生相談室（2室）を設置、看護師及び専任カウンセラー（臨床心理士・公認心理師の資格を有する者）を配置し、身体健康・学業・学生生活・進路・対人関係・精神健康等について常時、相談に乗っている。また、身体面では入学時（新入生）、健康診断受診時（在校生）に健康に関する調査を、心理面では入学時にUPI検査を実施し、主に学生のゼミ担当教員と連携して支援を行っている。また、UPI検査に関しては、精神面でハイリスクと思われる学生に対して、学生相談室から呼び出し面接を実施し、学生生活への適応をサポートしている。また、学生相談室の隣に学生が自由に使えるフリールームを設置し、学生の居場所作りを行っている他、ランチの会等のグループワークを実施し、対人関係に苦慮する学生の学生生活を支援している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：名古屋経済大学ホームページ

<http://www.nagoya-ku.ac.jp/result/?cx=017863690120298593462%3Aqdlb0juuhhy&cof=FORID%3A9&ie=UTF-8&q=研究教育活動>